

平成 29 年度 九州大学大学院経済学府修士課程第 2 次募集入学試験問題 (一般選抜)

マクロ経済学

次の 2 問から、1 問を選択し解答しなさい。

問 1 (T+L) 年間生きる個人を考える。個人は  $a_0$  だけの資産を持って生まれる。人生最初の T 年間は「勤労期」であり、この個人は毎年  $y$  だけの労働所得を得る。続く L 年間は「引退期」であり、個人は一切の所得を得ない。また個人は (T+L) 歳で死亡する際に  $b$  だけの遺産を子供に残す。なお T, L,  $a_0, b, y$  はいずれも定数である。この経済には完全な資本市場が存在し、個人は利率 0 のもとで自由に貸借ができる。また個人は毎年の消費 (のみ) から効用を得るが、消費のライフサイクル仮説に従って消費・貯蓄の決定を行っているものとする。なお割引率は 0 である。

- (1) 個人の蓄積する資産  $a$  を時間  $t$  の関数として求め、グラフに描け。
- (2) この個人の限界消費性向を求めよ。
- (3) 「勤労期」の  $n$  年目にこの個人の労働所得が突然  $y$  から  $y'$  に増加し、以降そのまま留まるとする。このケースにおける個人の消費を求めよ。
- (4) (3) のケースにおける限界消費性向が (2) で求めた値よりも小さくなることを示せ。

問 2 小国開放経済のマンデル＝フレミング・モデルを考える。ただしこの経済は変動相場制度を採用しており、資本移動は完全に自由であるものとする。

- (1) この経済の中央銀行が拡張的な金融政策を行ったとき、GDP、利率および為替レートはどのように変化するか。適切な図を用いて説明せよ。
- (2) この経済の政府が拡張的な財政政策を行ったとき、GDP、利率および為替レートはどのように変化するか。適切な図を用いて説明せよ。
- (3) 政府が輸入規制や関税率の引き上げなど保護主義的な貿易政策を行ったとき、GDP、利率および為替レートはどのように変化するか。適切な図を用いて説明せよ。